

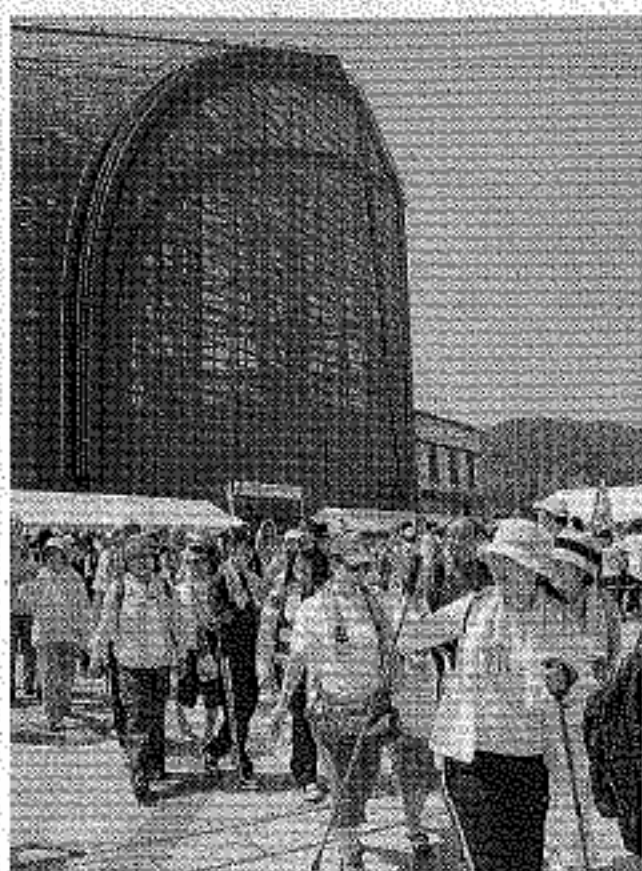
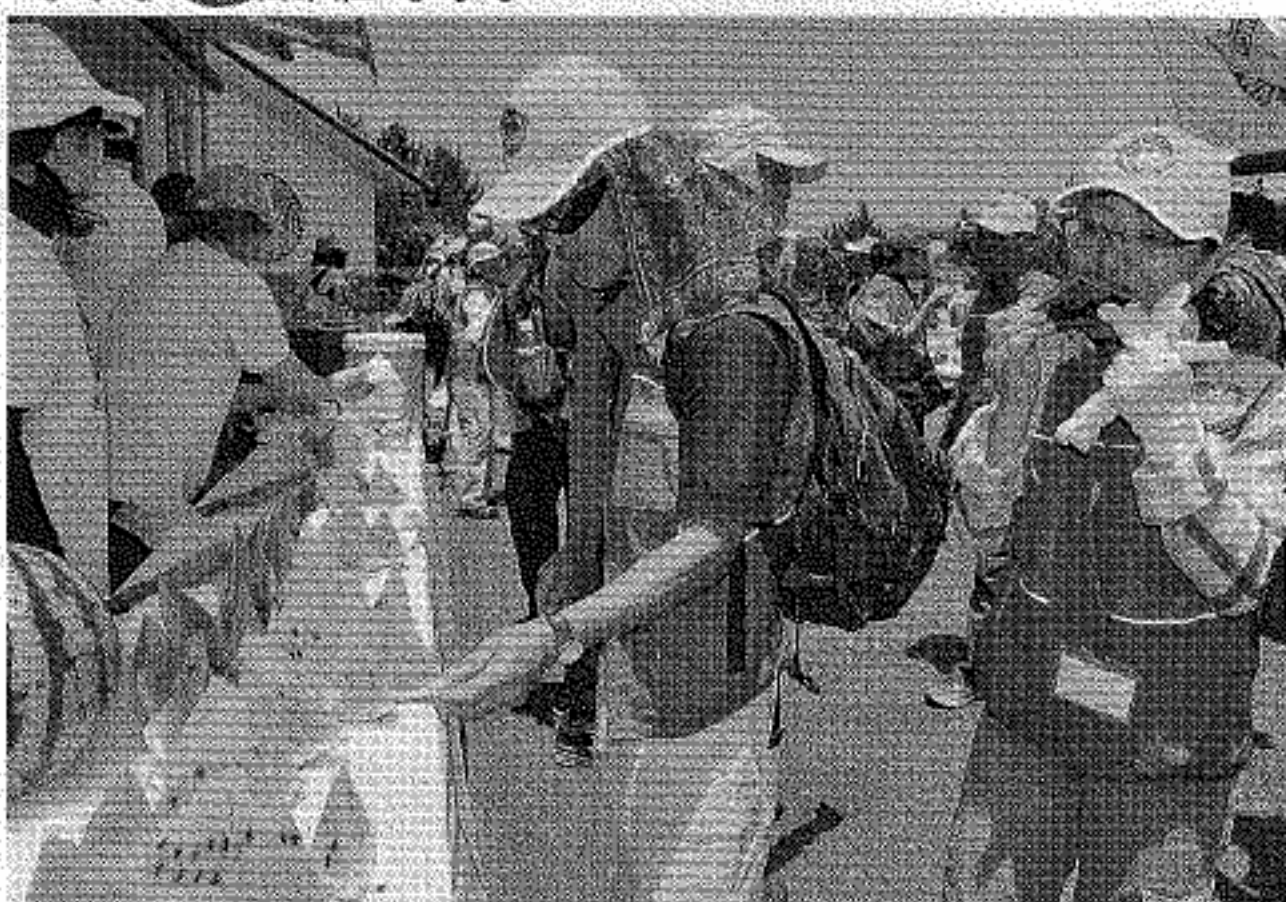
第10回日本海未来ウォーク(実行委員会、新日本海新聞社など主催)が5、6の両日、県中部地区で行われた。10回の節目を祝うかのように好天に恵まれ、県内外から2日間で3千人以上のウォーカーが参加。思い思いのペースで歩きながら東伯耆路の美しい自然や風景、文化を堪能していた。大会の様子をカメラで追った。

足取り軽やか 前へ前へ



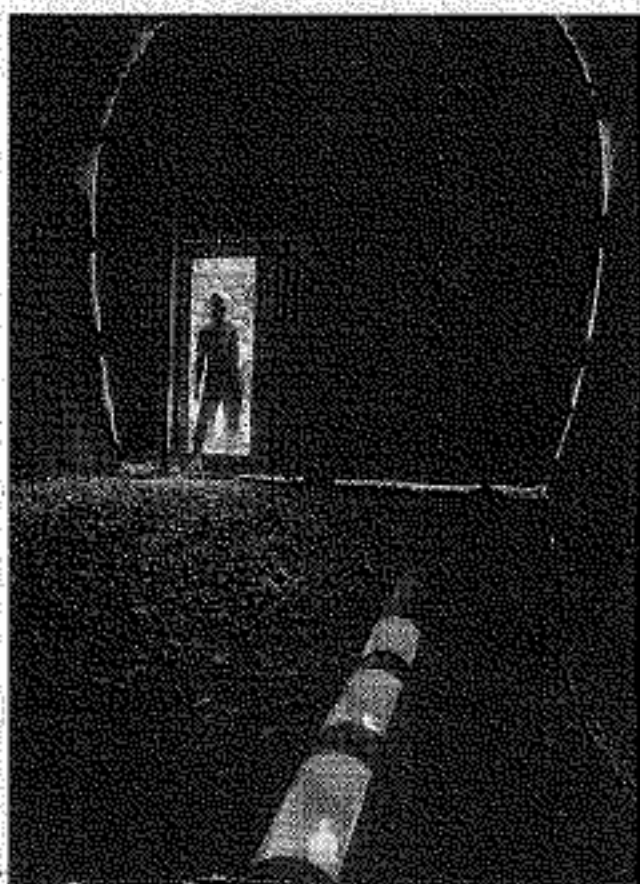
「さわやか」池から吹く心地良い風を受けながら軽い足取りで歩く参加者。湯梨浜町松崎の東郷池

第10回
日本海未来ウォーク
NIPON WALK 2010
PHOTOGRAPH

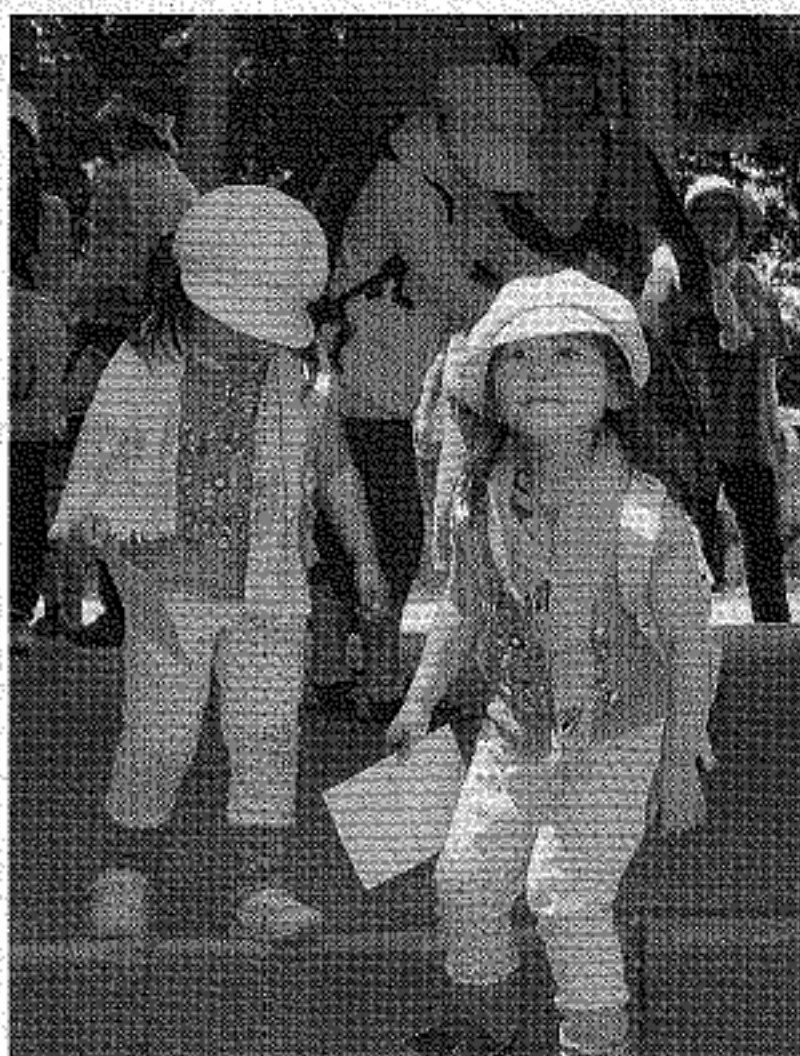


「行ってきます」青空の下、元気よく出発するウォーカー。倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心

「甘～い」北栄産のスイカでのどを潤す日韓ピースウォークのメンバー。ゴールまであと少し。北栄町由良宿の青山剛昌ふるさと館



「幻想的」最も長い41.1キロコース内の旧国鉄倉吉線廃線跡の山守トンネルでは竹灯籠(とんぼ)がウォーカーを迎える。真っ暗なトンネルの中でトンネルの炎がゆらめく。倉吉市関金町泰久寺



「元気いっぱい」新設された、歩育ウォーク。子どもたちは元気いっばいに打吹山周辺を歩いた。お寺の階段も一人でへっちゃらだよ。倉吉市仲ノ町の長谷寺